赤目まちづくり委員会・市民センター

たきこちゃん通信2

2022年 月号

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター)〒518-0465名張市赤目町丈六238-1 電話/FAX63-0329 E-mail/akame-ko@emachi-nabari.jp

年始に素晴らしいお年玉

赤目まちづくり委員会　会長 亀本和丈

寒中お見舞いを申し上げます。

月日の経過は早いもので、新しい年を迎えてより一か月が過ぎ去り、暦の上では４日に立春を迎える時期が来ているものの、毎日の寒さはなお厳しく、暖かい小春日和と新型コロナウィルスの一日も早い収束を心から願う処であります。

我が国はもちろん世界各国に於いても、毎日が過去最多との感染の拡大が報じられ止まるところが判らない現状に、地域の皆様方にはご心配とご不安の毎日をお過ごしの事と拝察致す処であります。

新年以降暗い日々の連続でありましたが、右側の記事にもあります様に、私達赤目地域に対しまして大きな、また立派な素晴らしいお年玉を頂戴する事となりました。

寄贈頂いた日本画は、地元赤目丈六橋からの堰を描いたものです。日頃私達はあたりまえの様に、また何となく見ているモノが目線を変える事で、思いを変える事で、光の当たる価値ある物に大きく変化する事を教えられました。

今後は地域の資源を宝の山と思い、発掘と表現に心掛けると共に地元の自然環境に感謝しながら、地域の更なる振興発展を心から願う処であります。

今年も健康で楽しい日々を送りましょう。

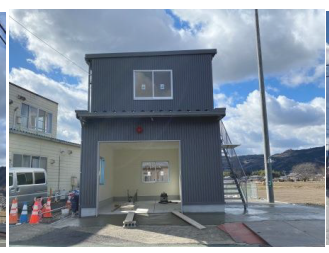
第二回凧揚げ大会を開催

1/8（土）青少年育成部会（水谷部長）主催で、年末に作った凧を持ち寄りみんなの夢ひろばで「凧揚げ大会」を開催。晴天に恵まれ西山教育長・副教育長を始め、錦生赤目小学校校長・教頭、市議会議員の方など 70 名余りの参加を頂き楽しく行われました。

残念ながら少し風が弱く高くは揚がりませんでしたが、和凧・ゲイラカイトを手に子供たちが走り回って頑張っていました。自作の凧揚げ大会としては、初めてで来年は、もっといろんな形の凧を作ってみたいと思います。

消防団赤目分団　丈六地区消防ポンプ庫が完成

10 月より解体・建替え工事を進めていましたが、この度完成しました。（2月１日現在の模様）



※『たきこちゃん通信』は、４月号より「赤目まちづくり通信」（仮称）と変更予定です。

日本画の寄贈授与式

1/14（金）名張市在住の日本画家・津田親重（つだ　ちかしげ）氏より赤目市民センターに日本画「光景」が寄贈されました。地元丈六区・滝川の丈六橋付近の堰を描いた 50 号の大作で、雨上がりの川の流れと反射する光が生き生きと力強く描かれています。

津田氏は、日展・日展春季展共に 10 数回入選。兵庫県出身で、18 歳から掛け軸絵画を制作する傍ら、日本画を中心とした創作活動・絵画教室を主催。掛け軸絵画と同様に岩絵の具を使って身近な風景や自画像などの作品を創作。

亀本会長より感謝状が贈られ、「地元の風景画を寄贈して頂いて、子供達や地域の皆さんに見て頂ける事が何よりも嬉しい。皆さんの喜び、励みになる。」と。センターにお立ち寄りの折は、是非ともご鑑賞ください。

憩いのサロン「ほしかわ」開催 1/16（日）

星川集会所で高齢者や子育て世代を対象に、第一回憩いのサロン「ほしかわ」が開かれました。子供たちに伝承遊びを教えたり、またお茶を飲みながら紙芝居を見たり、会話を楽しんだりと地域コミュニティの場として有意義な時間を過ごしました。これを機会に毎月第三日曜日の午前 9 時半より開催予定です。

「みんなのゆめひろば」利用案内

1. 門扉は常時開いていますので、他の利用者に配慮してご利用ください。2. 車の駐車は、入口の左右にお願いします。中央部への乗り入れは禁止です。3. 広場には、トイレはありません。

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋（無料交付）

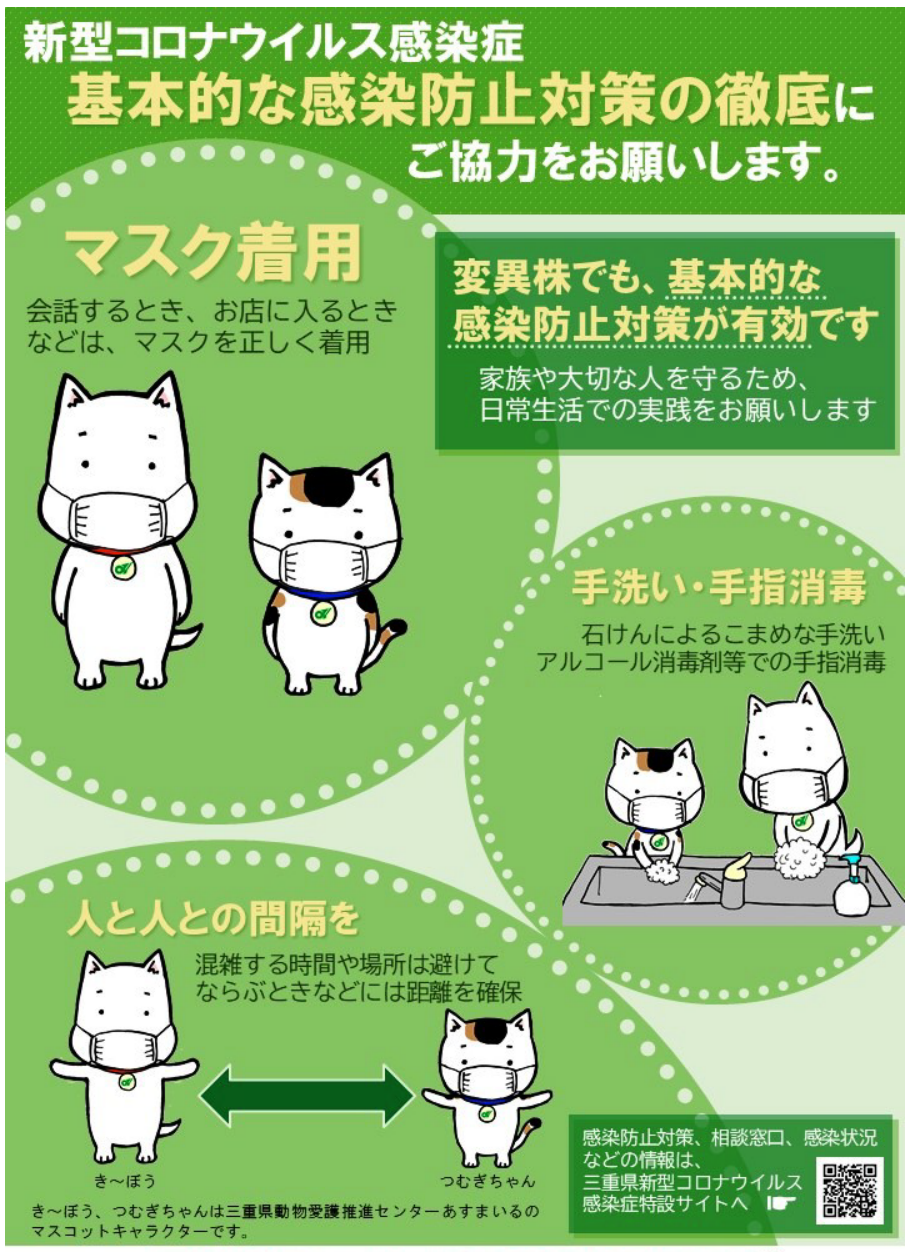
特大 45 リットル 10 枚 480 円・大 30 リットル 10 枚 300 円・中 20 リットル 10 枚 180 円・小 10 リットル 10 枚 80 円

紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり 30 枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ

赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。※スマホ・携帯電話で左の QR コードを読み取って下さい。また市民センターでは、無料 Wi-Fi が使えます。

今一度「恐れず、侮らず、怠らず」。



2月7日～3月6日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
2/7	8	9 ふれあいサロン 中止	10 組ひも体験教室 中止	11 建国記念の日	12	13
14	15	16 ELP 健康教室 中止 忍たま広場 中止	17 サンサンカレー 中止	18	19	20
21	22	23 天皇誕生日 ふれあいサロン 中止	24	25	26 ふるさとウォーク in あかめ 中止	27
28	3/1	2	3	4 サークル代表者会議	5 散策サポーター会議	6

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密（密集・密接・密閉）を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合が有りますので、ご注意お願い致します。

3 月の行事予定

★3/4（金）サークル代表者会議
★3/5（土）散策サポーター会議
★3/9（水）ふれあいサロン
★3/23（水）ふれあいサロン・忍たま広場

＜ 2 月度の行事中止・延期お知らせ ＞

人権学習会 2/5（土）中止、ふれあいサロン 2/9・23（水）中止、組ひも教室 2/10（木）中止、ELP 健康教室 2/16（水）中止、忍たま広場 2/16（水）中止、サンサンカレー 2/17（木）中止、ふるさとウォーク in あかめ 2/26（土）中止

Vol. 25 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」（各区・地域の名所・名品を募集しています。）

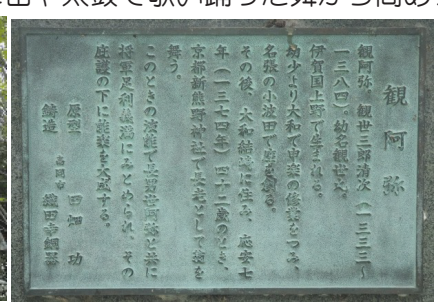
「観阿弥・世阿弥親子と花伝書」

今回より赤目を飛び出して、伊賀・名張の歴史散策を。名張と云えば、江戸川乱歩と観阿弥・世阿弥の親子が有名。そこで今回、能楽の大成者・世阿弥親子のお話を。

世阿弥元清（ぜあみもときよ、芸名世阿彌陀佛、正平 18 年（1363 年）～ 嘉吉 3 年 8 月 8 日（1443 年 9 月 1 日））は、室町時代初期の大和猿楽結崎座の猿楽師。父の観阿弥清次（かんあみきよつぐ、芸名觀阿彌陀佛 1333 年～ 1384 年・伊賀上野生れ）・ 能楽者で、伊賀国小波多（現・名張市小波田）で創座。観阿弥親子の能は、現代も「観世流」として受け継がれている。（wiki より）

父・観阿弥は、幼い頃から大和に出て申楽の道に入り芸を極め、その後、妻の出生地である名張市小波田で、初めて猿楽座（後の観世座）を建てた。能楽にゆかりの名張では、宇流冨志禰神社（平尾）に、能・狂言面 45 点（県指定有形文化財）が所蔵されている。この面は、室町中期から江戸期に作られた。世阿弥の作品は『高砂』『井筒』『実盛』など 50 曲近くあり、現在も当時のまま能舞台で上演される完成度の高い演目。

ユネスコ世界無形文化遺産に認定された能楽は、世界に誇れる日本の伝統芸能。能楽とは、「能」と「狂言」を合わせた舞台で、まさに幽玄とわびさびの芸術。能は、古典文学や同時代の出来事をもとにした歌舞劇。狂言は、日常の滑稽な部分を題材にした喜劇。能のもとは田楽、猿楽で、農民たちが田植えや収穫祭の時に笛や太鼓で歌い踊った舞から高められた。世阿弥は、容姿と才能に恵まれ、時の権力者・三代将軍足利義満の庇護を受け役者の才能を開花させた。

また書籍『風姿花伝（ふうしかでん）』（花伝書・かでんしょ）は、21 種の伝書のうち最初の著作。芸論も史料価値だけでなく、文学的価値も高い。亡父の教えを基に、能の修行法・心得・演技論・演出論・歴史・能の美学など、世阿弥自身が南北朝から室町初期にかけて、会得した芸道の視点からの解釈を加えた一子相伝の秘伝書。花伝書の「初心忘るべからず」とは。「初心」とは、初々しいという意味ではなく、若い時期の未熟さを指す。未熟な芸を忘れずに、身体に記憶させておけば、芸が下がることはないと。また「花」という言葉を、人気、技能、美、栄光など様々な意味で用いる。現代人も、「彼には花がある」「彼女は花のようだ」などと表現する。その「花」を咲かせるには、運命に身をまかせるのではなく、絶え間ない努力をするしかないと。時が経つに連れ夢が変わっても、果てしない道を歩み続けること自体が、今を生きる老若男女がたとえ老いても「花」ではないかと。

晩年、世阿弥も佐渡流罪など、不遇な波瀾万丈の生涯を送った。しかし室町時代に大和と伊勢・名張など初瀬街道を往来して、赤目の風景を見て思考していたに違いない。　（参考資料：「風姿花伝」水野聡訳）